巻　頭　言

見えているけど見えないもの

公益財団法人日本植物調節剤研究協会　評議員
株式会社エス・ディー・エス バイオテック 取締役 技術開発部長
関野　景介

５月の連休が終わると弊社では水田の区割りのシーズンとなる。研究所の化学系，生物系の研究員だけでなく工場や本社の新入社員は研修という名のもとに区割りに駆り出されるのであるが，その大半の時間は作業で終わることになる。指導する側も少しでも早く区割りを終わらせ，播種や水管理，薬剤処理に時間を割きたいのであるが，研修という名目上，少しは教育的なこともしないといけないと感じている（試験区の設置方法も十分な教育内容であるが）。

水田雑草を教えようにも当然このタイミングでは全て発生前なので如何ともしがたい。そんな時に畦畔や法面に目を向けると春雑草から夏雑草に変遷するさまが見て取れる。作業の合間や休憩時間に研修生に雑草の名前や見分け方を教えると，それまで道端の単なる緑の風景でしかなかったものが，一つひとつ名前と特徴を持った植物に変わってくる。まさにぼんやり目に入っている風景から区別できる対象物に変わる瞬間である。興味を持って覚えた雑草は記憶に定着し，次からはほっといても目に飛び込んでくることになる。

似たようなことは試験区の雑草調査でも起こりうる。あの試験区にあの雑草が残っていたよねと話しても通じないことがある。知らない雑草は目に映っているだけで認識していないということだろう。

おもしろいことに，畦畔や法面の雑草を教えている際に，葉に白い粉のついたホトケノザを見て，殺菌剤の人はうどんこに罹病していると言う。見えている部分が違うのだ。こうしてみるとその人のバックグラウンドにより見え方は異なってくるようだ。すなわち，バックグラウンドを豊かにすれば，見える景色も豊かになるのではないだろうか。

話は変わるが，最近は文献検索も非常に楽になった。検索キーワードを登録しておき，ヒットした論文タイトルを毎週メールで受け取るサービスを利用している方も多いのではないだろうか。一昔前，私が大学の研究室に入った頃の 1990 年代初頭はインターネットもなく，文献検索と言えば，１日割いて図書館にこもり，関連する文献を探してくるというスタイルであった。それでもちょうど５インチフロッピー版のカレントコンテンツ（CCOD）が図書館に導入され，検索は多少楽にはなってきていたが，主流はカレントコンテンツの冊子体や最新の雑誌をパラパラめくって関連する文献を探していた。このパラパラ検索は時間がかかる上，かなりの頻度で脇道にそれ，研究主題とは別の少し気になる文献を読んだりして非効率この上ないが，たまたま見かけた文献が後々の研究に役立ってくることがある。視野を広げて知識を深めていくと，それまで気にしていなかったものが急に目につくようになる。まさに先の知っている，覚えた雑草は目に飛び込んでくる，である。キーワード検索アラートサービスは私も多く利用しているので，否定するわけではないが，効率的に専門分野の最新文献を集め，知識を深めるには都合が良いが，周辺分野や全く異なる分野の知識が疎かになるきらいがあるため，一つの手段として活用することにしている。

本誌には原著論文や様々な情報のコラム，植調講座，田畑の草種，緒（いとぐち），各種連載物，表紙写真の解説など多くの情報が詰まっている。誌面を構成される編集委員の皆さんや執筆者の先生方の多大なご苦労には頭が下がるが，毎号知らないことを知る機会としてワクワク感を持って拝読している。今号が発行される頃は，秋も深まり，読書のしやすい季節になっている頃と思われるが，様々な方面にアンテナを張り，知識を吸収することで，観察力と洞察力を鍛え，今まで見えなかったものを見えるものに変える力（先見力）をつけてはどうだろうか。

今年は猛暑，東海～九州・沖縄地方の局所的大雨被害，新潟をはじめとした北陸地方の水不足などの報道がなされたが，被害にあわれた方々にお見舞い申し上げます。